



玉島31年ぶりV

春の岡山県高校軟式野球大会（山陽新聞社後援）最終日は26日、真庭市の真庭やまびこスタジアムで決勝があり、玉島が学芸館に2-1で競り勝ち、31年ぶり2度目の優勝を飾った。両チームは5月21～23日に鳥取県の米子市民球場である中国大会に出場する。

▽決勝	学芸館	玉島
投	二塁打	宮本、稲田
三塁	宮本が左越えに	玉島は五回2死
先制	二塁打。さらに宮本は中継が乱れる間に三塁を陥れ、次打者への暴	
得点	0	2
安打	0	2
打点	0	1
犠打	0	0
犠飛	0	0
盗塁	0	0
失点	0	1
失誤	0	0
三振	2	1
四球	0	0
暴投	0	0
総当たり	0	0
試合時間	2	1

学芸館	打安点	玉島	打安点
⑦3三	宅410	⑥光	枝200
⑧八	塔300	②平	田400
④稲	田420	⑦宮	本321
⑤千	原421	④花	田410
⑨奥	山300	⑧高	尾420
①天	野300	①山	本200
③布	野200	⑨藤	原430
⑦H	草加100	③山	崎400
②佐	保田300	⑤門	野200
⑥藤	原300	計	2981
計	3051		
玉島	打安点	学芸館	打安点
⑥光	枝200	⑦三	宅410
②平	田400	⑧八	塔300
⑦宮	本321	④稲	田420
④花	田410	⑤千	原421
⑧高	尾420	⑨奥	山300
①山	本200	①天	野300
⑨藤	原430	③布	野200
③山	崎400	⑦H	草加100
⑤門	野200	②佐	保田300
計	2981	⑥藤	原300
		計	3051

適時打で1点を返し、九回も1死二、三塁と攻めたが、あと一本が出なかった。（稲垣心也）

機動力絡め相手に圧力

一打逆転の九回2死二、三塁、県内屈指の右腕山本がカーブでこの日10個目の三振を奪ってゲームセット。玉島が実に30年間遠ざかっていた春の県王座に返り咲いた。

山本を中心に守り勝つ野球が持ち味だが、今大会は3戦で16得点と打線も気を吐いた。決勝でも変則フォームの学芸館・天野から8安打。得点こそ控えめだったものの、4盗塁など機動力も絡めて終始、好機を広げた。

圧力を掛け続けることで相手守備にほころびが出る。五回、光枝の邪飛を相手野手が落球。「ここで出塁すればチャンスになる」と、粘って死球をもらい、次打者の初球にチーム一の俊足を飛ばして二盗を決めた。

その後、2死三塁とすると、宮本が初球の甘い直球を捉えて左越えへ先制の二塁打。さらに中継ミスと暴投であっという間にホームにかえり「隙を突く攻撃ができた」と満足そうに振り返る。

ただ、自軍もエラーをきっかけに失点し、「上で勝つためにはノミミスにしない」と大橋監督は手厳しい。チームの最終目標は、こちらも1986年から四半世紀遠ざかっている8月の全国選手権出場。主将の山崎は「中国大会で経験を積んで、もっともっと強くなる」と勝負の夏を見据えた。（稲垣心也）

【学芸館―玉島】5回裏玉島2死三塁、宮本が左越え二塁打を放ち、1-0と先制する。捕手佐保田＝真庭やまびこスタジアム